

会 議 名	令和7年度 第1回 稲沢市社会教育委員会・公民館運営審議会
開 催 日 時	令和7年5月20日（火） 午後2時00分～4時05分
開 催 場 所	稲沢市役所本庁舎 2階 政策審議室
主 催	生涯学習課
議 題	◎あいさつ 協議事項 1 委員長・副委員長の選出について 2 令和6年度主要事業報告について 3 令和7年度主要事業に係る取り組みについて 4 その他 （1）部活動地域移行について （2）社会教育委員の役割について
出 席 者	【委員】 吉川光彦、朝日章夫、大野芳樹、定行加保里、大室有美、服部みどり、渡辺香織、鶴野豊明、藤田美知子、牛嶋みゆき、岡崎正和、安藤学、吉田達矢 【事務局】 教育長、教育部長、生涯学習課長、スポーツ課長、図書館長、美術館長、各課グループリーダー、部活動地域移行コーディネーター、社会教育指導員、生涯学習課主任 計15名
備 考	傍聴者なし

【会議概要】

委嘱辞令交付 令和7年4月1日から令和9年3月31日までの2年間、新たに委嘱された委員に教育長より委嘱状を交付

◎あいさつ

（教育長）

- ・第1回社会教育委員会に御多用のところお集まりいただいたことへのお礼。
- ・令和5年度から9年度までを計画期間とする国の第4期教育振興基本計画では、2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の作り手の育成と日本社会に根差したウェルビーイングの向上の2点をコンセプトとしてこの計画が作られている。
- ・学校教育においてはその実現に向けて、主体的・対話的で深い学びの視点にたった授業改善と個別最適な学び、協働的な学びの一体的充実に取り組んでいる。
- ・ここ数年の不登校児童生徒の急激な増加に対しては、魅力ある学校づくりとともに、誰一人取り残されないための施策が求められており、教育委員会としても学校とともに努力をしている。

・社会教育においては、地域や家庭でともに学び、支え合う社会の実現に向けた教育の観点から社会教育人材の養成と活躍機会の拡充、コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進、家庭教育支援の充実による学校家庭地域の連携強化等が挙げられている。

・少子高齢化の進展や人口減少といった課題がある中で、持続可能な稲沢市を作っていくために、本日お集まりの各分野で活躍をされている委員の皆様方から幅広くご意見やご提言をいただきたいと考えている。

・本日は、中学校部活動地域移行の推進にあたっている森コーディネーターも出席している。協議事項の中で、部活動地域移行検討委員会での進捗状況等について説明をさせていただく。

・最後に、委員の皆様のますますのご健勝とご多幸をご祈念申し上げるとともに本市の社会教育の充実に向けて委員の皆様のお力添えをいただくことをお願い申し上げる。

(各委員より席順に自己紹介)

(事務局より自己紹介)

◎議題

1 委員長・副委員長の選出について

- ・慣例により、互選による委員長の選出をお願いしたい。
- ・出席委員より吉川委員の推薦があり、他の委員から異議なしで委員長は吉川委員に決定。
- ・副委員長については慣例で委員長による指名を行っており、吉川委員長より副委員長に朝日委員を指名。他の委員から異議なしで副委員長は朝日委員に決定。

◎あいさつ

(委員長)

- ・人のまねはできないので自分なりにやらせていただきたいと思います。
- ・意見をどんどん言って、生涯学習課、スポーツ課、美術館、図書館がいいヒントをもらって、これをやってみようかなとなればいいと思う。たくさん言うことがあって来たので、それを参考にしていただけたらと思う。それが教育委員会事務局を支えることであり、我々も含めて社会教育を少しでも理解していくことになる。
- ・2年間元気でやっていきたいと思っているのでよろしくお願いします。

(副委員長)

・30年前に当時の平和町社会教育課で、生涯学習推進計画をつくるとなったときに、派遣社会教育主事として平和町に派遣され、3年間計画を立てたという記憶があるだけで、過去のことになるのでわからないことばかりで、皆さんの聞き役になればと思っている。よろしくお願いします。

2 令和6年度主要事業報告について

資料1「令和6年度 主要事業報告書」について生涯学習課、スポーツ課、図書館、美術館の順で説明

(生涯学習課)

- ・西尾張芸能大会を稲沢市で開催した。西尾張の芸能活動の発展を目的に9市町村が持ち回りで開催している。各市町村で会員の高齢化や現象が問題となっている。
- ・中高記念館公開&稲沢の文化財展では稲沢ふるさとガイドの会の協力を得て、「赤染衛門と尾張」と題して特別展を実施した。
- ・中ホール天井落下防止対策工事、中ホールホワイエトイレ洋式化工事が完了した。会館30周年が経過し、様々な不具合が生じているため計画的に修繕を行っていく。

(スポーツ課)

- ・トップアスリートとの交流事業として、市内中学校部活動の巡回指導をバレーボールチームウルフドッグス名古屋、ハンドボールチーム豊田合成ブルーファルコン名古屋の協力のもと実施した。競技力の向上につながるようにと考えている。また、市内小学生対象のバレーボール体験教室を開催した。
- ・スポーツ振興基金の運営として、優秀ジュニア選手に小学生2名、中学生4名を認定した。
- ・地区体育振興会では、運動会等のスポーツレクリエーション事業を各地区4事業以上行い、地域の健康増進を図っている。令和6年度からは運動会を必須の事業から外した。
- ・スポーツ参加人口が令和2年度以降コロナウイルスの影響により大きく減少している。近年はコロナ禍以前の約半数にとどまっている。今後については、中学校の部活動地域移行が予定されており、少子高齢化と相まって、スポーツ離れが進まないか心配している。

(図書館)

- ・利用状況について、わずかに増加傾向であるものの、前年度とほぼ横ばい。入館者数は約10%増加した。インターネット館内利用は全体で30%増加した。
- ・読み聞かせボランティアきらら会が主催で、きらら会40周年記念絵本作家スギヤマカナヨさん講演会が開催された。
- ・商工観光課との共催でウィキペディアタウン稲沢を実施した。市内のフィールドワークを行い、情報収集を経て、ウィキペディアの内容更新を行うイベントを開催した。
- ・英語で楽しむ絵本の会、天体観望会「土星食をみよう」は、令和6年度の新規事業で今年度も実施する予定。
- ・図書館特別講座では、全国を巡って読書バリアフリー法の周知に努めている専修大学の野口武悟教授に講演いただいた。
- ・祖父江の森図書館開館30周年記念事業「ブックツリー・心に残る私の1冊（大好きな本の木）」では、利用者からおすすめの本についてコメントを記載した大きな紙の葉

っぱが寄せられ、大きなブックツリーが完成し開館30周年を盛り上げた。このほかにも周年事業として事業を実施した。

- ・子ども読書活動推進計画では、令和6年度に第3次計画が終了し、計画期間の多くがコロナ禍により活動や取り組みの中止などが余儀なくされたこともあり、目標には届かなかった。これらの結果を踏まえ、不読率及び読書量の改善を中心目標に据え、読書環境の向上に向けての施策を行う、第4次計画の策定を行った。

(美術館)

- ・荻須高德の遺族から20点、株式会社名古屋画廊様から1点のリトグラフの寄贈があった。これにより荻須高德作品の所蔵点数は269点になった。

- ・美術館では概ね3年以上の期間で荻須作品をお預かりしている。《バナニア》(リトグラフ)、《ムフタル通り》(リトグラフ)の寄託を新規にいただけることになった。今年度の秋の特別展に向けて展示できるように準備を進めている。

- ・令和6年度特別展「安野光雅展 イマジネーション・ワンダーランド」を開催した。観覧者数は歴代3位だった。

- ・新たな取り組みとしてウェルカム!おしゃべりDAYを実施した。美術館は静かな場所なので、子どもを連れていきにくい子どもと一緒に美術館に訪れたいといった方々やお友達と楽しくおしゃべりしながら鑑賞を楽しみたいという大人に向けて、普段の静かな環境と違った美術鑑賞の楽しみ方を体験していただいた。来館者数の増加につながったと考えており、今年度も実施予定。

質疑応答

(委員)

- ・着衣水泳の指導について、学校の水泳の授業の状況とか教えていただきたい。

(スポーツ課)

- ・授業についてはわからないが、着衣水泳の事業はセントラルフィットネスクラブ清須、スポーツクラブNAS稲沢にお願いするという形でやっている。1コマ使って低学年を対象に希望のあった学校で実施している。

(委員)

- ・高学年は実施していないということか。

(スポーツ課)

- ・高学年は実施していない。低学年が水難事故に遭うケースが多いと思っているので、募集も小学校の1・2年に限っている。

(委員)

- ・なかなか私達の年代では着衣水泳についてあまりイメージがないが、こうして進んでいるということで状況がお聞きしたかった。

(スポーツ課)

- ・好評のため今年も参加するよう努めていく。

(委員)

- ・安野光雅展の来場者数が歴代3位と多かったということだが、増えた要因や増やす工夫についてお聞きしたい。

(美術館)

- ・ウェルカム！おしゃべりDAYという小さなお子様連れの方やお話ししながら鑑賞したい大人のために1日設けたが、その日は普段より来場者が多かった。なおかつ、美術館の入場者数のカウントは未就学児を含んでいないため、小さなお子さんを含めるともっと多くの方にご来場いただいている。

- ・会期中盤と終盤にNHKのニュース番組で取り上げられ、テレビで観たということでお問い合わせも多くいただいた。

- ・新しい取り組みとしてFMラジオ「ZIP-FM」に広告を打たせていただき、アンケートで、ラジオで聞いたから来たという方もみえた。

(委員)

- ・素晴らしい展覧会が開催されるが、もっとPRしないといけないという声がよくあった。今回は、テレビやラジオで聞いたという声を聞いており、2年前くらいから美術館のInstagramが充実していて、発信力が大きかったと思う。美術館に多くの方が来ていただけるようにこれからもぜひ邁進していただきたいと思う。

(委員)

- ・スポーツ参加人口が減ったということだった。コロナのこともあるかと思うが、令和5年5月に感染症の位置づけが5類に変わったが、それから参加してもらえるように何か工夫をしてみえるか。

(スポーツ課)

- ・先ほどの説明で、令和6年度から体育振興会の事業で運動会が必須ではなくなったという話をさせていただいた。コロナ禍を契機に人が集まらなくなったり、やり手がいなくなったりといった声を団体から数多くお聞きして、運動会は必須というのをなくし、幅広い世代で皆様に集まってやる競技であれば、交付金の対象にするということで、緩く幅広くやっていただけるように令和6年度から改正している。その代わり運動会は人数が多く集まるので、その分人数が減っているというのが現状。また工夫してコロナ禍以前の人数が集まるようにできればと考えている。

※令和6年度主要事業報告について承認

2 令和7年度主要事業に係る取り組みについて

資料2「令和7年度主要事業に係る取組みシート」について生涯学習課、スポーツ課、図書館、美術館の順で説明

(生涯学習課)

- ・地域学校協働活動推進事業について説明。

(スポーツ課)

- ・トップアスリートとの交流事業について説明。

- ・第20回アジア競技大会（愛知・名古屋2026アジア競技大会）について説明。

（図書館）

- ・子ども読書活動の推進（稲沢市子ども読書活動の取り組み）について説明。

（美術館）

- ・令和7年度特別展「荻須高德 リトグラフ展 ―稲沢市荻須記念美術館コレクション―」について説明。

質疑応答

（委員）

- ・今後の課題については、情報共有がされていないこともあるかと思うが、前回から少しずつ変わってきていると思う。
- ・部門毎とあるがこれはどういう意味か教えてほしい。

（スポーツ課）

- ・聖火リレーについては式典課というところがやっている。文化事業プログラムは生涯学習課通してお願いしているがそれも他の課がやっており、事業ごとに組織委員会の課が違っているので部門毎と表現した。

（委員）

- ・今後はどうしていくか。派遣された職員とも共有した方がいいのではないか。

（スポーツ課）

- ・派遣した職員も同じ職員なので、共有できるところはしていきたいと思っているが、組織なので情報を出せる部分と出せない部分がある。

（委員）

- ・組織委員会からお金を出してくれということもあるかと思うがそのあたりについて教えてほしい。

（スポーツ課）

- ・お金を出さないということではなく、聖火リレーや文化プログラム等あるので、そうしたことについては予算を取ってやっていきたい。

（委員）

- ・予算をこれからとるということになると補正予算ということか。

（スポーツ課）

- ・必要があれば補正予算でということになる。何も決まっていないうちは予算を取れないので、事業が具体化した後に予算を取るということになる。

（委員）

- ・バリアフリー&おもてなしマップの作成とあるが、これは完成されたのか。

（スポーツ課）

- ・組織委員会が委託しており、一緒にまち歩きをして作成している。完成したかまで確認できていないが骨子はできている。

（委員）

- ・市の独自のものではなく、組織委員会全体ということでよかったか。

(スポーツ課)

- ・競技会場すべてのところで県が取りまとめてやっており、競技会場ごとのマップができあがる。その中の一つに稲沢市がある。

(委員)

- ・市民にも広報としてお知らせはいただけるのか。

(スポーツ課)

- ・会場に足を運んでもらうためのマップなので、ぜひその方向で考えていきたいと思う。

(委員)

- ・資料を作成するときに稲沢市独自なのかそれ以外の事業なのかわかるようにしていただきたい。

- ・地域学校協働活動推進事業について推進員説明会を聞きに行ったが、まだまだ質問がでてくる。

- ・まちづくりと連携してくださいと課長はおっしゃられたが、市民センターのまちづくりとはなかなかうまくいかない。市民センター地区だと学校をいくつも抱えていて、今までも学校との関りもそこまで密接というわけではない。地域のことを一生懸命やっていた。そこに市民センターに振られてもなかなかできない。でも立場上地域と言えはまちづくりと言わざるをえない。

- ・祖父江小学校区のまちづくり通信をお配りさせていただいた。学校区のまちづくりなのでとてもやりやすい。学校区ごとにまちづくりがあれば楽になる。

- ・各学校運営協議会にまちづくりの人を入れているかチェックしてほしい。すぐ連携できるシステムがないといけない。

- ・祖父江小学校区はできている。学校があるから地域コミュニティがある。餅つき大会では、子どもたちは一生懸命餅つきをし、地域の人は皆お手伝いをし、保護者も一生懸命作っている。あれこそコミュニティだと思う。それは小さいからこそできるし、祖父江支所は合併した時に、まちづくりをつくるように稲沢市に言われ、祖父江支所は小学校区ごとにまちづくりを作った。その後、祖父江支所で一つ作るように言われたが、祖父江小学校区のまちづくりはそれでも続けようとなった。それまでは祖父江小学校区のまちづくりに市からお金をいただいていたが、市から離れたので、自分たちの地域の人から1世帯当たり300円くらいいただいて活動している。

- ・今まで、まちづくり通信を作っていなかったが、何を活動しているか知ってもらうためにも作成した。

- ・地域学校協働活動推進事業がどうしたらうまくいくか地域協働課長と話をしてやっていかないとうまくいかない。どうすればまちづくりと結託できるのか、学校を応援できるか考えていただきたい。

- ・説明会で、推進員からお茶1本出さないでどうするのかという話があったが、総合的な学習のお金やまちづくりから少し出すとかやりようはあるはずだと思う。

- ・部活動の地域移行の話もこの後出るかと思うが、学校運営協議会で中学校長が地域の人に探してくださいとお願いしないといけない。

(委員)

- ・愛知県知事から県の職員に対して、アジア競技大会のボランティアが不足しているのでボランティア休暇を使ってもいいから参加してくださいと呼びかけをされた。稲沢市もボランティアが不足しているかと思う。ボランティアを集める方策はあるか。平日に一般の勤めてみえる方に参加してくださいと言ってもなかなか難しいところがある。自分にとって大事ことであれば年休などを取って参加するだろうが、ボランティアが足りないという状況であれば何か策が必要だと思う。

- ・協議事項で令和7年度主要事業に係る取り組みについてということでシートを提示されたが、何を協議するということでしょうか。すでに予算の承認を受けている事業だと思うので、協議事項ではなく質疑応答だと思う。協議事項として挙げるのであれば私たちの意見が反映されるものなのか。また、これはいつ協議するものか。

(スポーツ課)

- ・ボランティアにつきましては、稲沢市で460名必要だと言われており、現在稲沢市のENTRIOに来ていただけると登録していただいた方が420名集まっている。5月2日と16日に採用イベントと称して開催した。こちらの参加人数も349名だった。不足するというほどではないと思っている。

(生涯学習課)

- ・確かに「令和7年度主要事業に係る取り組みについて」は今回の場で協議をして、7年度の内容を変えるというのは不可能であるかと思う。11月の第2回で7年度の間接報告と翌年度の予定を提示させていただき、御意見いただき反映できるところはしていく。第3回で最終的な事務局案を提示させていただくことになる。今回は、7年度の予算が確定したことにより、事業内容が確定したということと、6年度の実績を報告させていただいた。

(委員)

- ・内容を聞いている限り協議事項ではなく、報告事項並びに質疑応答だと思う。何か協議するということでもないと思うので、次第について今後どうしていくかお聞きしたい。

(生涯学習課)

- ・次回以降、協議事項というのを改めたいと思う。

(委員)

- ・気が付いたときに少しずつ変えていくのが大事だと思う。

(委員)

- ・子ども読書活動の推進について学校に図書館司書がお勤めになっている。その司書さんからお話を聞いて、こうなるといいと思ったことをお話させていただきたいと思う。先ほどから子どもの読書離れという話が出ているが、子どもたちの様子を見てみると子どもたちは本が好きだと感じる。学校の図書室にも多くの子どもがきている。

・司書さんの話の中で出てきたのは、稲沢市の図書館にもデジタル図書館という形で蔵書がデジタル化されていて、それを端末で見ることができる。ただし、図書カードを登録しないとできない状態になっていて、図書カードに登録している番号とパスワードを入れたらアクセスできるということだが、学校では子どもたち一人一つのアカウント ID があり、その ID が学校のパソコンのタブレットの中で全て紐付けされている。電源を入れてログインすれば、全てのものがアクセスできるような状態になっている。これが市の図書館のシステムと連動するようになると、子どもたちは学校でタブレットを開けば、稲沢市の図書館に繋がるのでかなりの閲覧が増えるのではないかと思う。さらにそこから予約等ができて、実際に図書館へ足を運ぶということにも繋がっていくと思う。

・周辺の自治体などでもそうした取り組みを行っているところがあると聞く。システムを連動させるのにどれぐらいの予算がかかるかわからないが、そうしたことをすることで、読書に興味を持つ子たち、または手軽に本を手にとることができる。実物を手にすることはないにしても、本に触れるという機会は一気に増えるのではないかと思う。

・これから梅雨の時期になると、休み時間に外に出られなくなり、子どもたちが図書室や教室で過ごすことが多くなる。学校で言うと、様々なものに触れる機会があると、校舎内で走り回らずに過ごすこともできるのかなといったことも思う。

・学校の図書室の本も貸出しを行っているが、手書きで図書カード本の名前を書いて、それを提出する。これも市の公共の図書館ではもうそんなことはなく、全て電子化されてシステムで貸借りができる。これについても、大きなシステムを32校すべてで導入しようと思うと多額になり大変だが、タブレットを使って、クラウド上で全ての貸し借りもそこまでお金をかけずにできるようなものが検索すると出てくる。そうしたものの少しの予算で可能な部分もあるかと思うので、その辺りも調査研究していただいて、ぜひ学校の図書室のシステム化も進めていただければと思う。

(図書館)

・稲沢電子図書館に関しては、既に何年も前から図書館小中学校連携委員会の方で、協議をさせていただいている。ただ、いくつかの課題がある。その課題の中には学校の現場、学校の先生、もしくは職員にかなりの負担をお願いする部分もある。現状その辺の解決ができていない。こちらからどこまでのことがしていただけるのか、どこまでのことであればこちらが管理できるのかというところを徐々に提案をしているが、現状なかなかそこまで進んでいない。そのため、今のところはカードを持っていच्छる小・中学生には利用できることをお知らせしていただく形で、稲沢電子図書館始まって以来ずっと行っているもので、読み放題パックというのを常時入れており、そちらを利用いただければということをお願いしている。

・こちらとしても有効に活用できれば、それに越したことはないが、いくつかの課題があるということは御承知いただければと思う。

・二つ目に学校図書館におけるシステム化については、これも何年も前から現場の声として伺っている。こちらは所管が学校教育課になり、そちらに先行して要望してくださ

いということで学校でもその辺の問題点は認識されていると思う。ただ優先順位の問題もあるので、こちらとしても引き続き連携して情報提供をしていきたいと思うが、現状としてはこうした状況であることを御理解いただきたいと思う。

4 その他

(1)部活動地域移行について

(森部活動地域移行コーディネーター)

・資料としては稲沢市部活動地域移行だより No. 4 になるが、その前になぜ地域移行というところから説明する。少子化に伴い各中学校の部活動数が減少しており、生徒の選択肢が非常に限られている。例えば稲沢市内の学校でも、運動部が3つ、文化部が2つのいずれかしか選べない学校もある。運動が苦手な文化部からとなれば2つからしか選べないことになる。また、教員の希望者数が激減しており、大きな社会問題となっている。その要因の一つが教員の労働時間の多さが指摘されており、この部活動が特に問題視されている。全国では、4月の始業式で担任発表のときにあるクラスの担任だけ発表されない、担任がいないという学校が何校か出てきている。また4月は揃っていても、途中で産休や病気、怪我で教員が続けられない人の代わりの先生がなかなか見つからず、授業が自習になったり、教頭先生が担任をやったり、校長先生が授業をやったりという、正常な学校の運営になっていないという現状が起きている。

・令和4年12月にスポーツ庁と文化庁からガイドラインが出され、学校の教員が行っている部活動から地域の人たちが行っている地域クラブに中学生が入って、地域みんなで子どもを育てていこうという指針が出された。

・令和5年度から令和7年度の3年間を改革推進期間ということで地域連携・地域移行に取り組んでほしいという意向が出された。稲沢市としては、将来的には地域移行を目指す、3年間で完全な地域移行を行うというのは難しいと考えており、来年度の2学期から地域連携の形をとることにした。

・具体的には休日の部活動の顧問をその学校の教員が行うのではなく、月3回程度・年間最大40回を地域の方が、教員も含めて、部活動指導員となって活動拠点において複数の中学校の生徒を指導する「いな活」を実施するというようにした。

・サッカーの場合4か所だけだが、この4拠点でサッカーの活動を行うということになる。子どもたちはこの4拠点のどこかを選んでサッカーをやりたい子はやれるということになる。

・今年約50名の方の部活動指導員を雇っており、来年度からは今の倍の100名を雇って、1拠点2人ずつで「いな活」を進めていきたい。来年の2学期からは、教員でもやりたいという人は、地域の部活動指導員として参加することは可能だが学校の教員としては参加しないことになる。「いな活」を部活動指導員2人で進めていくということで考えている。

・今年度の2学期から実験的に実証事業をやってみようということで、一部の部活動で実験的に行うということで進んでいる。各部活動指導員に会って様々な御意見をいただ

いた中で、数が少ないところでいいのかという御意見もいただいて、本当は9月から3月まである一つのところでやってもらおうと思っていたが、2学期と3学期に分けて部活動を変えて、様々なところで取り組んでもらいたいということで案を作成し直している。

- ・休日の活動に対する意識調査を来年の「いな活」に参加する中1と小6の子どもたちにアンケートをとって検討していきたい。

- ・今年4月のところで中学生に示したが、中学生を受け入れるスポーツ団体と文化団体を募集して、スポーツ団体は5つ、文化団体は8つしかなかった。これをどんどん増やしてこれが100近くなってきたら、子どもたちも自由に選んでいけると思う。そうすると、本当に地域移行が完成すると思っているが、なかなか数が増えないと思っている。数を増やす努力は今後もしていきたい。

(委員)

- ・今のところ大会はどういう形で出場するのか。

(森部活動地域移行コーディネーター)

- ・これが一番の悩みで、来年度の夏の大会はまだ学校単位で出ることができると思っているが、まだ来年度の要綱もこちら側に下りてきていない。このいな活をやる子たちが参加する、令和9年の夏の大会がどうなるのかということは、全くわからない状態になっている。その内容に応じて、今まで通り学校単位で出場するのか、それとも拠点校であるこの「いな活」で出場するべきなのかということが変わってくるだろうと思う。また、大会自体が開かれるのか開かれないのかということもわからない。中小学校体育連盟の全国大会で9つの種目がもう開かないと宣言されている。その中にハンドボールも入っているがハンドボールに関しては、どうやら協会がその代わりになる大会を開くということだが、本当にどうなるのかは正直わからない。

(委員)

- ・部活動指導員の増員が学校にとっては非常にありがたい形で進められている。来年度以降、倍増ということで、本当に人が必要だと思う。

- ・既存のスポーツ団体に中学生を受け入れるのを促進するということを進めていただけることが、中学生も市民の1人として、市民のスポーツ振興という意味でも、そういったところで中学生が地域の方たちと一緒に活動することが、地域に根づいた形で子どもたちを育成していくという部分でも必要なかなと思っている。

- ・スポーツ庁の方から、さらに平日のという話まで出てきた。この先どのようになるのか学校側も、降りてくるまでどうしていいのか模索しながらの形になっている。地域の皆様が、この子どもたちのスポーツを行う場というのを市全体で考えていただけるといいと思う。

- ・体力テストをこの時期に行うが、愛知県の体力テストの結果が全国的にもかなり低く、体力の低下というものが課題になっている。小学校低学年の子たちの様子を見ると、ボールを投げるという動作が普段やっていないなというようなボールの投げ方をしていたりする。二極化みたいな部分もあり、小さい頃から何かのスポーツに特化して取り組んでい

る子たちもいる。そういった中でも気軽にスポーツができる環境を自然体で整えていくというのもまたこれから必要になってくるかなと思う。そのあたりもスポーツ課さん中心に進めていただければと思う。

(委員)

・部活動の地域移行については、本当に悩ましいところで、例えばソフトボール、ハンドボール、サッカー、テニスなど様々な競技があるが、例えば卓球を取ってみると、個人競技になり、レベルの差や求めるものが違ってくる。例えば「いな活」をしたときにそこにはある程度の競技力がある選手を育てるのか、それとも地域で楽しくワイワイやっていけばいいのかというその二極化というのが卓球の場合にはよく表れる。どちらを求めていけばいいのか。私たちが指導者としてもしやったときに、そこが難しいと感じている。

(森部活動地域移行コーディネーター)

・部活動指導員によってカラーが出てくると思われる。こちらとしては、プロを目指したい、全国で名を上げたいという子たちは、クラブチーム等に入っていくのではないかなと思っており、そうではなくて本当に地域の中でやってみたい、あるいは少しでも上手になりたいと思っている子たちがやれる場所を確保していきたい。どちらかというと、あまり上を目指すということに重きを置いてはいないが、それでもやっぱり勝つと嬉しいということで、より上を目指す部活動指導員もみえるところもあると思う。そうなるとうとうとうその思いを持っている子たちが集まってくる。そうじゃなくてみんな楽しくワイワイというところにはそういう子たちが集まってくる。様々なカラーがあることで、子どもたちが選べたらいいのではないかなと思っている。

(委員)

・子どもたちの選択を尊重するということでやっていくということで「いな活」を考えればよいか。

(森部活動地域移行コーディネーター)

・「いな活」に関しては、例えば自分のところにあるのに、わざわざ隣の拠点校へ行くというのもありだと思っている。子どもたちの選択を尊重するということでやっていく。

(委員)

・既存のスポーツ団体に中学生の受け入れの意向を訪ねたところ非常に少ないということだったが、この地域移行する場合に、それぞれの地域に新しく中学生を対象としたスポーツ団体を作ることなのか、あるいは既存のスポーツ団体にぜひ中学生を受け入れてくださいということなのか。どちらの方がより早いかなと思ったら既存のスポーツ団体の方に中学生を受け入れてくださいと、その方々が活動しやすい場所で受け入れていただくというのが多分一番活動しやすいように思う。そのときに、どうしてうんと言わなかったのかというところを取り除く。例えば中学生が入ると今の話時間が取られてしまう人数が増えてしまう、あるいは初心者指導が難しいとか、いろいろあると思うが、一番大きいのは何か依頼を受けて、よしやるぞという方はなかなか少ないと思うので、お金を出すとかそういう発想はあるか。受け入れていただく団体には補助金として

これだけを出すのでぜひ部活を支えていただけるようにお願いします。というような形のものであると、多少首を縦に振る団体も増えるような気がする。その辺は何かお考えはあるか。

(森部活動地域移行コーディネーター)

・今のところそこまで考えていなかった。気持ちの中には、この「いな活」を来年度行うために倍の部活動指導員さんを雇ってもらおうお金だけでも大きな金額なので、まずそれを通していただくことを第1優先に考えている。今いただいた意見もすごく大事なことでと思うので、予算を取りに行くのは学校教育課の課長になると思うが、様々な意見を踏まえながら、予算について検討していただきたいと思っている。

(委員)

・中学校の先生方は部活動地域移行について知っているか。部活動の顧問をしている先生は感謝しているが、そうでない先生方は全く理解されてないように感じる。部活動地域移行だよりをただ渡して終わりにするのではなく、校長先生から先生に説明してほしい。先生方の心も育てていかないと、子どもたちの心も育っていかない。

・部活動指導員をしている人の声をもっと聞くようにしてほしい。

(委員)

・体育振興会に入っているので、中学生の受け入れについてアンケートを見たが、紙媒体を見ながら自分で理解していくのだが、一番怖いのは中学生が来たときに、先生も誰も来なくてどんな子が来るかもわからない。健康状態も何もわからなくて、ただ来たいから受け入れるというのがすごく怖い。生徒さんでも様々な方がいる。でも全く中学校に関わっていないから、何年何組の誰々さんが行きますぐらいのお知らせはあるかもしれないが、募集してきた場合、それを受け入れるこちら側の立場は、そこまで情報がないので全部受け入れないといけないのかということもある。こういう人は駄目とは言えないので受けることになるが、ほぼほぼ私達の活動は順調にはいかなくなると思う。

・経験者だと言われてもどこまで経験者なのかということもわからないし、受け入れ側としてはそういう意味で不安しかない。

・例えばど祭りにその子たちがでるのかとか、衣装代はどうするのかとか、そういうことも道具とか買うなどしないといけないといったときに、そういうのはどうなのかという説明が何もないので、全部自分判断になっていくのだと思う。そういったこともあって申し訳ございませんが受け入れはしめんと返事をした。

・受け入れる側のスポーツクラブとしても地域団体もそういうことは多々考えられると思う。大人の中に入ってくるというのもある。そういうところも検討していただいてと思う。

(森部活動地域移行コーディネーター)

・受け入れてもいいけど条件がということも絶対にあると思う。そういう条件等も聞かせていただいて、その条件も含めて表に記入させていただいて、子どもたちに知らせていきたいと思っている。

(委員)

- ・受け入れ可能かを「はい」か「いいえ」で聞いていて、条件を書く項目もなかったの
で、断るしかなかった。

(森部活動地域移行コーディネーター)

- ・結構今回も受け入れてもらえるといったところでもお金が最初にくらいるとかいう
ところもあるし、送り迎えは必ず保護者がきちんとやってもらわないといけないという
ところもあるので、様々な条件で受け入れるかどうかという部分があると思う。そうい
うことも聞きながら、子どもたちに示していきたいと思う。

(委員)

- ・部活動の地域移行について、高校が話題にならないのはなぜか。

(委員)

- ・中学校3年生が高校を選ぶ基準の一つに部活に入りたいからというのがある。部活が
高校の特色の一つになっているというのが公立でも私学でもあると思うので、それが全
くなくなるというのは考えにくいというところがある。私の個人的な意見だが中学校の
状況が落ち着いてから考えていただくのではないかと考えている。

(委員)

- ・一般の大会が気になっていた。私が中学生のときは大会があることによって部活動に対
するモチベーションとか、団体競技というところでその学校内での先輩後輩だつていう
繋がりもすごく感じていたので、大会もあるといいなと思う。

- ・どうしても部活動になると、授業後の参加になる。そうすると、例えば明治中学校の子
がサッカーをしたいから大里東中学校に行くとなると、その移動時間を考えると親御さ
んはどうしても帰宅時間のことが気になると思う。これが自転車で行かなければいけな
いのか送迎があるのかということも踏まえて、幅広いスポーツへの参加っていうことが
この「いな活」というのを通してしていただければと思う。

- ・一宮市とかお隣の市町村とかの連携とかも図ればまたいいのかなと思う。

(2)社会教育委員の役割について

あいちの社会教育委員ハンドブックについて生涯学習課から説明

その他配付資料について生涯学習課から説明

(委員)

- ・最後にもう一つ要望したいのが、3月の定例教育委員会で、社会教育目標が承認された。
いくつか質問があったが社会教育目標に関しては4つぐらいしかなかった。どうしてか
というと社会教育目標しか資料を出していない。今日みたいに取り組みシートがあれば、
もっと皆さん言いやすいと思う。情報がないから質問ができないと思う。そういう意味で、
来年度からは、ぜひこういったシートぐらいを入れると、もっと活発な定例教育委員会に
なるのではないかなと思う。

(教育部長あいさつ)

令和7年度 第1回 稲沢市社会教育委員会・公民館運営審議会 会議録

- ・本日は長時間にわたりお時間をいただき貴重な御意見をいただいたことのお礼。
- ・いただいた御意見を参考に、少しでも現状からの改善が図れるよう事業の推進に努めていく。今後とも御指導御協力を賜りますことをお願い申し上げます。

〈午後4時05分閉会〉